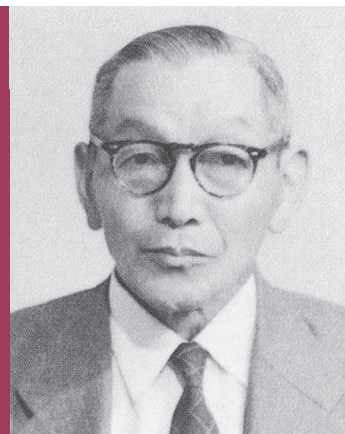


# 山岡 武 小伝

Takeshi Yamaoka



山岡武氏は、明治24年（1891年）岡谷市に生まれ、大正6年東京帝国大学工科大学冶金学科卒業後、官営八幡製鉄所入所、第2製鉄課長、日本製鉄株式会社本店技術部長、広畑製鉄所製鉄部長兼化工部長、同所技師長、常務取締役、昭和25年から32年まで日本製鉄代表精算人、27年より八幡製鉄株式会社監査役を歴任し、昭和37年5月第一線を退いた。

その間、官営八幡製鉄所、日本製鉄株式会社において製鉄設備の拡充、改良に努力を払った。すなわち、わが国最初の大型1,000t溶鉱炉である洞岡第3溶鉱炉建設は、昭和9年10月着工昭和12年2月歴史的火入れを行ったが、送風機を除きほとんど全部国産品によって完成した。その斬新な設計と装置はわが国最高の技術水準を示すもので、当時欧米一流製鉄所の同種設備と比較し何等遜色のないものであった。以来輪西製鉄所700t、広畑製鉄所1,000t高炉建設に際しても、氏は当初よりすべての建設計画に参画し、その立案及び推進に努力した。原料・燃料面より来る幾多の困難に直面したが、氏の研究と努力はこの難関を見事に克服した。

昭和21年日本製鉄株式会社常務取締役に就任、終戦後の混迷の時期にあつて技術担当常務として、また24年から2年間は日本鉄鋼協会会長として、国家的見地に立脚し、わが国鉄鋼業の興隆の基礎確立に専念、それによって製鉄業の復興・発達に貢献した。特に昭和23年8月学界、業界、官界がそれぞれ行ってきた研究委員会を統合して3者の連携の下に鉄鋼技術研究連絡会を発足させ、これが昭和29年10月鉄鋼技術共同研究会となったが、これは氏の卓越した指導力によってなし得たことである。氏は昭和45年まで16年間その幹事長として研究会の順調なる運営に力を注ぎ、共同研究の振興に多大の努力を払った。

なお、鉄鋼技術共同研究会は昭和37年12月日本鉄鋼協会共同研究会になった。また氏は鉄鋼協会会長としてGHQと接渉し、25年1月アメリカ鉄鋼業調査団を派遣したが、これがその後の合理化計画推進の端緒となった。

昭和56年氏が90歳を迎えられ、和田亀吉氏ほか有志の発起によりその記念のための募金が行われ、約700万円余の資金が本会に寄贈された。本会はこの資金をもって山岡賞を設け、鉄鋼の学術技術における共同研究に多大な功績のあったグループに授与することとした。昭和57年5月氏の逝去後遺族より300万円が追加寄贈された。